

ローマの道

ROME WAS NOT BUILT IN A DAY

二に練習、二に練習、
三がなくて、五に練習
ソロ・ギタリストの
原点はここに

⑥

毎日の小さな積み重ねがいずれ積もって大きな成果として実を結ぶ。これは楽器演奏でも同じだ。とは言っても、少しでも楽しんで上達できないものか…なんて考えてしまうのはアナタだけではないハズ(笑)。そこでプロのギタリストに日頃のトレーニングのコツなどを聞いてみよう！というのがこのコーナー。今回はジャパニーズ・メタルバンド、マリノのギタリストである大谷レイブン氏に普段の練習について聞いてみた。尚、その華麗なるプレイは動画で配信しているので、ぜひホームページにアクセスして欲しい。

■ピックは基本的にはDunlop 1.5mmで緑のワニの図柄のやつだけど、半音下げチューニングやその日の調子によっては同じくDunlopの1.14mmや0.96なんかも使

うね。このピックはちょっと変わった材質なんだけど、色々試した結果、これが一番音が太いような気がするんだよね。そして、ピックの丸い部分で弾いてる。もちろん、尖っている部分で弾いた方がアタックが出るから、特定のフレーズでトレモロ・ピッキングする時にはこっちの方が良いんだけど、丸い部分で弾いた方が太くて暖かい音が出るんだよ。
■弦はDEANMARKLEYのBLUSEKINGでゲージは0.10-0.52だね。ホントは1弦は0.11位にした方がバランスはよいかもね。これも半音下げで使う時はもう一段

匠 今月の
大谷レイブン
伝説のジャパニーズ・メタル・バンド、マリノのギタリストとして1984年デビュー。イングヴェイ・マルムスティーンのオープニング・アクトを務めるなど精力的にライブ活動を行う。最新作はソロ・アルバム「Raven Eyes II」、教則DVD「インテグレイテッド・ロック・ギター」。自己のトリオ・バンド「BLACK TIGER」のライブは12/21(火)高円寺ショウポートにて。

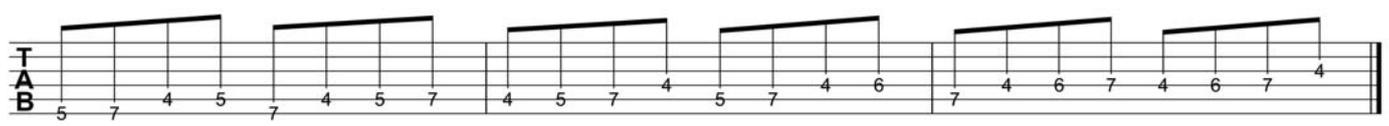
匠のアドバイス
・ウォームアップでしっかり手を温める
・毎日少しでもギターに触れる

階太いゲージを使ってる。
■練習はまず始めにウォームアップとして普通のスケールから弾いていくね。これはどちらかというと左手よりも右手を温める要素の方が大きくて、左手はコードを弾いていても温まるけど、右手はそうはいかない。でも、スケールだとピッキングのアップダウンが規則的じゃないから、右手のウォームアップに効果的なんだよね。ウォームアップだから速く弾く必要はなくて、ゆっくり丁寧に弾いていく。
■日によって違うけど、ウォームアップ後は自分が最近弱っている部分を取り入れたフレーズを弾いていく感じ。もちろんライブ前なんかは自分の曲も弾くけどね。練習の時は圧倒的に生音で弾くことが多いかな。近所迷惑だし(笑)。家で音を出すこともあるけれど、大きい音を出したい時にはスタジオを借りて爆音でアンプを鳴らす！爆音で弾かないとミュートの感じとかも分からないからね。メトロノームは使っていないけど、必ず自分の足や体でリズムを取りながら弾くことにしてるよ。
■他には、たとえ弾く気が起きないときでも、必ず毎日練習して欲しいね。5分でも10分でもいいから、毎日ちょっとでもギターに触ることが大事。そうしたらギターは必ず上手くなっていくから！

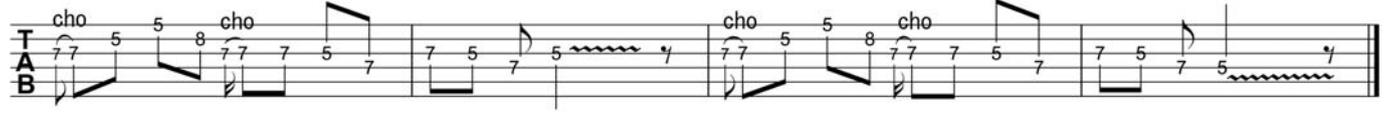
フレーズ1：シンプルなスケール練習で左手を温める



フレーズ2：ペンタトニックのスケール練習



フレーズ3：ビブラートの位置を変えながら弾いていく



※Guitar Proにはレコーディング機能はありません。

PRESENTED BY
e frontier
イーフロンティア
http://music.e-frontier.co.jp/product/gp/

GuitarPro6

ギター/ベース/ウクレレ/バンジョーなどフレット楽器独特のタブ譜や演奏表現などを含んだ楽譜の作成、専用音源によるリアルな再生、トレーニング機能など、画期的な機能を多数搭載。



サイトには今回のフレーズを演奏している映像とGuitarPro6のデータがあります。プロ・ギタリストの運指の映像を観るもよし。パソコンの画面上でTAB譜を見ながら、テンポを変えて、音を聴きながら、練習することもできます。[Windows/Mac版 体験版]
http://music.e-frontier.co.jp/gp6/

